

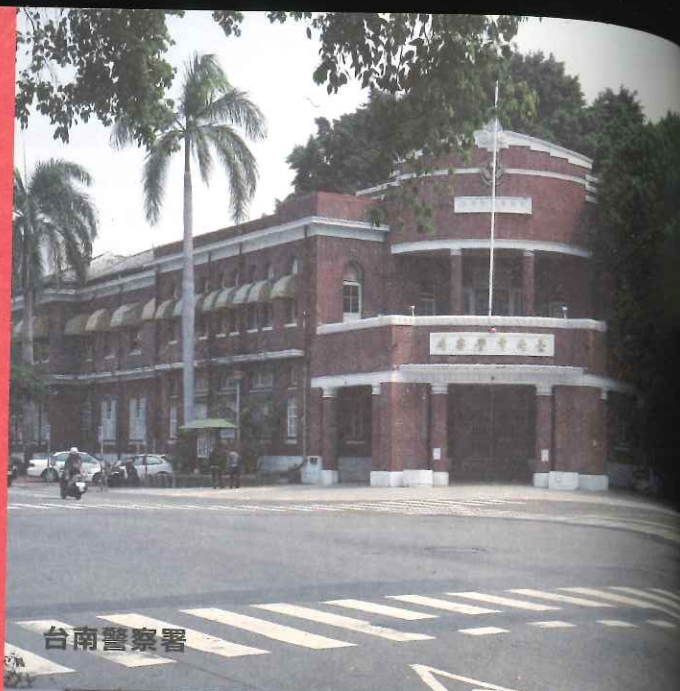
特集 2

知られざる 梅澤捨次郎 の仕事

你所不知道的梅澤 捨次郎

梅澤捨次郎、その名前を聞いたことのある人は少ないだろう。1890年生まれの梅澤は工手学校を卒業してすぐに台湾に渡り、日本総督府土木部營繕課に務めて、台中医院、台北大学、台中教育大学など数々の建築を手がけた。家族と大きな屋敷に住み、幾つもの会社の顧問を勤めていた。晩年に日本に戻った梅澤は、明治の気質からか、自分の仕事ぶりを誇示しなかった。同様に台湾では技師として働いた彼の名はほとんど公になっていない。しかし彼が建てた建築は、今なお各地で愛され、大事に改修されている。知られざる梅澤の活動を追った。

聽說過梅澤捨次郎名字的人應該不多吧。他出生於1890年，工手學校畢業後立刻來到了台灣，在日本總督府土木部營繕科任職，參與設計了臺中醫院，臺北大學，臺中教育大學等建築。他和家人們住在一起，同時還擔任多家企業的顧問。晚年回到日本的梅澤，由於他自己個性低調，從未和人說起過自己之前的工作。同樣，作為技師的他台灣也沒有被特別宣傳。但是他的建築卻在各地受到人們的喜愛，被非常悉心的保存和改修。讓我們來了解一下這個不被所知的梅澤所做過的事吧。



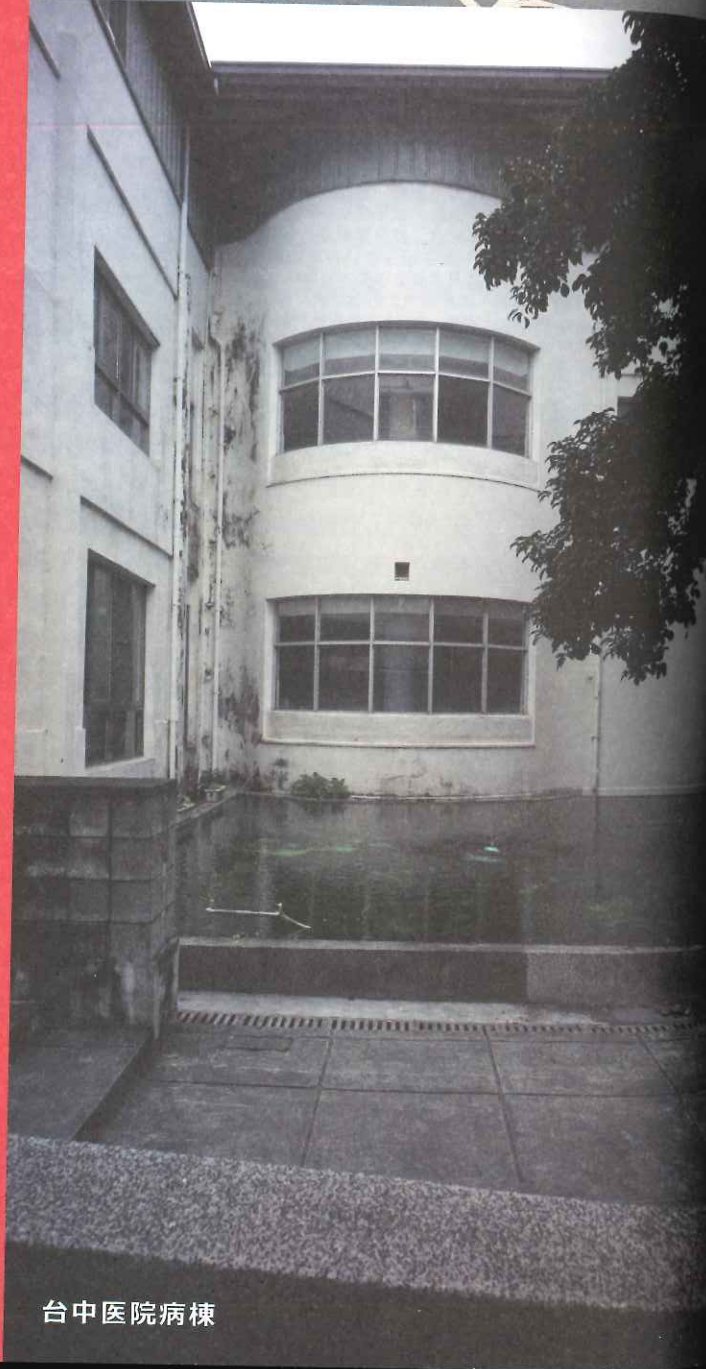
台南警察署



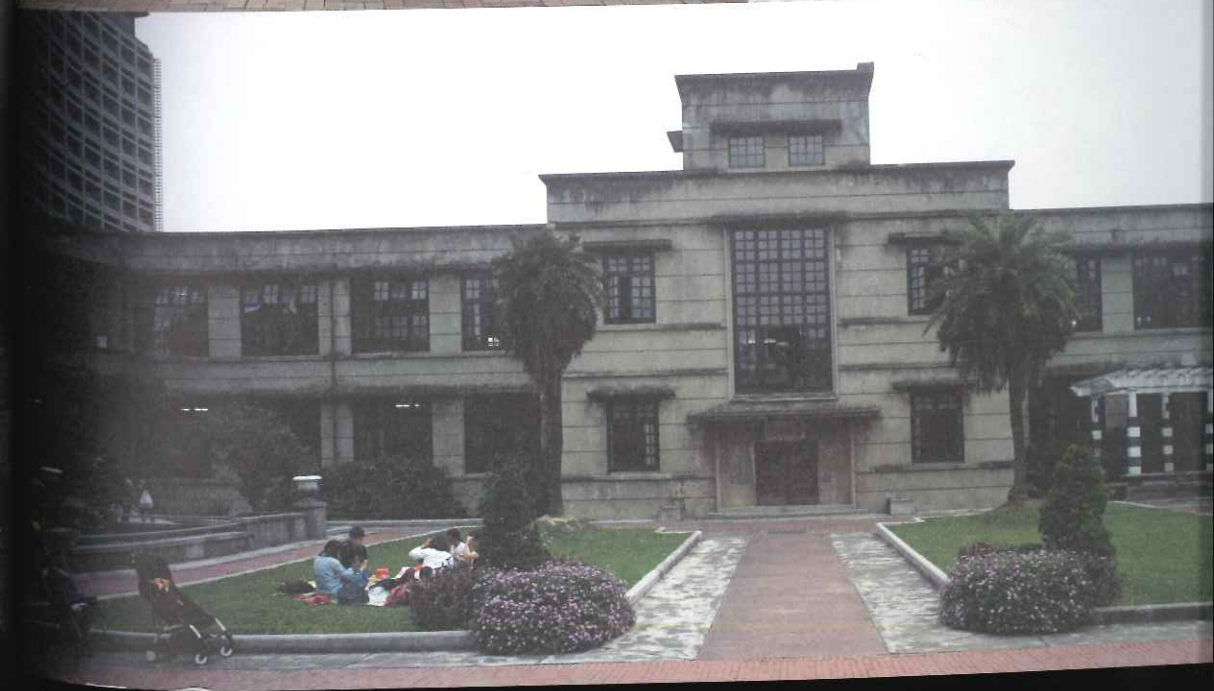
專売局新竹支局



台中師範學校本館



台中醫院病棟



復活

新装開店

林百貨”

ルアー
角地の
いた。
った。

新重新
の建築
書時代



孫夫婦から見た梅澤捨次郎

訪談 孫夫婦眼中的梅澤捨次郎

2015年1月25日福岡にて梅澤捨次郎のお墓参りとインタビューを行った。後列、梅澤弘之さん・加代子さんご夫妻。前列、吉浦基紀さん・美津子さんご夫妻。

2015年1月25日我們在福岡參拜了梅澤的墓地並進行了採訪活動。後列為梅澤弘之與加代子夫婦，前列為吉浦基紀和美津子夫婦。



捨次郎18歳の頃（後列右から2番目）
捨次郎18歳時候の照片（後列右數第二位）

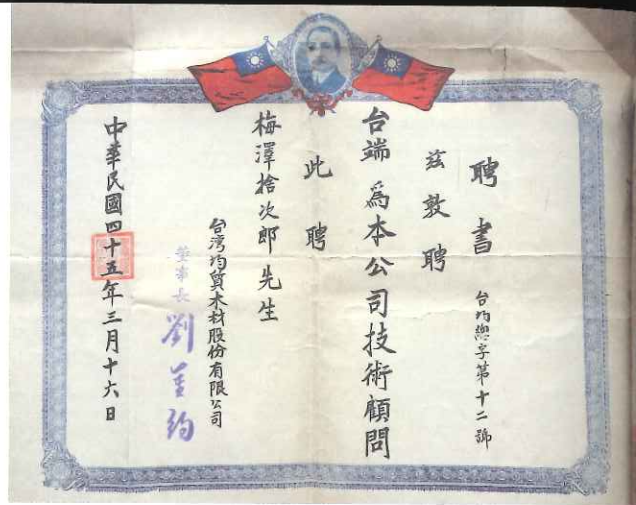
梅澤捨次郎は終戦後10年ほど台湾に残っていた。日本に帰国して入退院を繰り返し、台湾から再び要請が来ていたが、1958年4月29日に嘉穂郡穂波町（現福岡県飯塚市）の自宅で亡くなった。69才だった。

かつて台湾で多くの建築を手がけたことを、梅澤捨次郎は日本で決して吹聴しなかった。台湾から共に帰国した妻の志奈と、長男の清之、長女の雪野も台湾の生活を語らなかつた。孫の弘之は生後一週間、孫の基紀は2才頃に台湾を離れたため、台湾の記憶はまったくなかつた。後に台湾の友人が父を訪ねてきたり、祖父が仕事で台湾に呼ばれたりしたことはあっても、暮らしは日本に切り替わって

いた。祖父が台湾の総督府で建築の仕事をしたことは知っていたが、特別な興味は持たなかつた。捨次郎は胃がんの治療のため入退院を繰り返した。小学校5年生の弘之を枕元に呼び「しっかり勉強しなさい」と告げると69才で亡くなった。やがて孫が結婚すると、志奈はそれぞれの家に遊びに来て、孫の嫁の美津子や加代子を相手に、黒い絹の夜会服を見せ、台湾で32組の仲人を務めたことや、台北の広い屋敷に住んでいたことを少しずつ語り始めた。大正生まれの志奈は、「布団の隅を踏まないように」と注意したり「これくらいは出来ますよ」と台所でお茶碗を洗ったり、いつまでも優雅な婦人然としていた。志奈が104

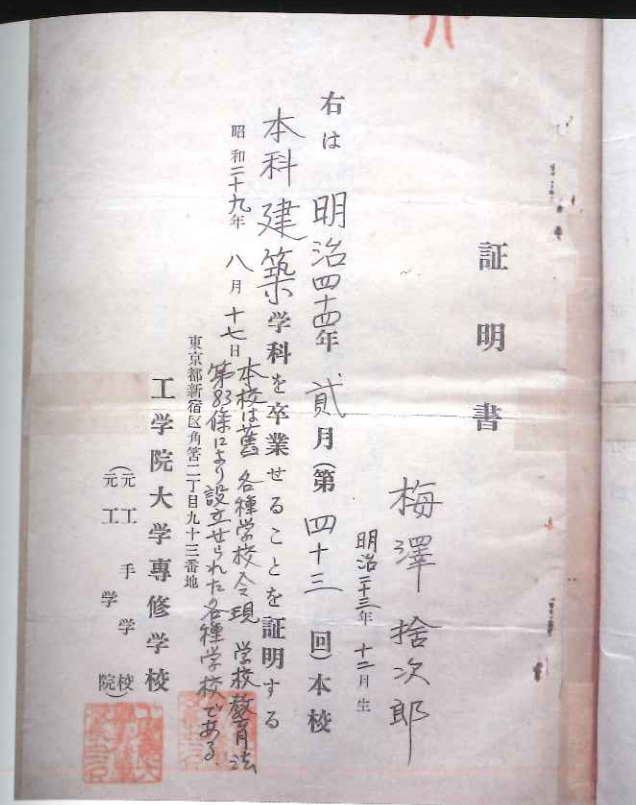
才、清之が87才、雪野が85才で亡くなると、仏壇や引き出しに台湾時代の家族写真や書類が残された。入用とは思えなかつたが生前に清之が調べた戸籍謄本や家系図と合わせて、箱につめて取っていた。

最近になって思い立ち、美津子がインターネットで祖父の名前を検索すると、台湾の建物の写真が出てきた。2014年6月、林百貨の開幕式に招かれて基紀と台湾を訪ねてみると、セピア色の昔話が急にカラーになって甦るようだった。祖父はどんな人生を過ごしたのか。NICHE編集部の間いかけに、祖母に聞いた話の断片をつなぎ合わせ、写真を引っ張りだして、台湾に必要とされた技師の人生を

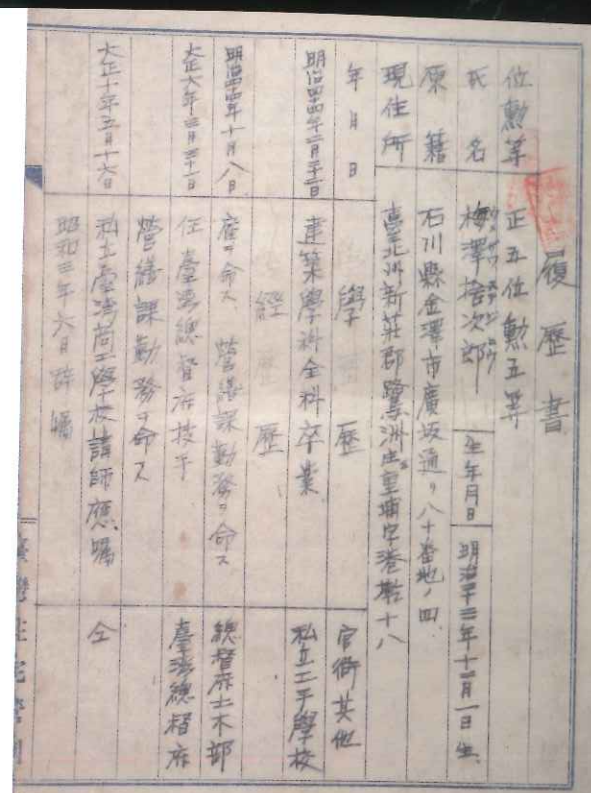


日本に戻った捨次郎には台湾から顧問の要請が絶えなかつた
1953年7月1日
回到日本後的梅澤捨次郎拒絕了台灣的顧問邀請
1953年7月1日

結婚25周年、台湾神社境内にて捨次郎と志奈（奈は変体かなのふ）
1943年12月21日
結婚25週年的捨次郎和志奈，攝于台灣神社境内 1943年12月21日



工手学校（工学院大学）卒業証明書 工手學校（工學院大學）的畢業證明書



梅澤捨次郎直筆の履歴書 梅澤捨次郎手筆的履歷表



1924年、神社にて献燈した石川県人会の集合写真
1924年，在神社裏石川縣人會的紀念照



晩年の梅澤夫妻 1957年11月17日
晩年の梅澤夫婦 1957年11月17日



1958年4月28日に逝去した捨次郎の葬儀
1958年4月28日去世的梅澤捨次郎的葬禮

唄んだ。

梅澤捨次郎は今、福岡県の玄界灘を臨む立花山の墓地で、桜並木の傍に眠っている。（杉原有紀）

梅澤在休戦後10年左右一直待在台灣。之後回到日本，一直處於住院出院得狀態。雖然台灣方面一直邀請他前去，但終究是由於身體原因無法前往，最終於1958年4月29日在九州醫院去世，享年69歲。

梅澤在台灣參與了眾多建築的設計工作，卻從來沒有在日本進行過宣傳。和他一起從台灣歸來的妻子志奈，長男清之，長女雪野也從來沒有說起過他們在台灣的生

活。當然，剛出生一周之後就被帶到日本的孫子清之也對台灣沒有任何的記憶。比他更小的孫子基紀出生在日本，對他來說，台灣是個陌生的地方。就算是經常看到有台灣的朋友來看望父親，有聽他們談及祖父在台灣的工作，他的生活已經完全屬於日本。雖說他也知道祖父在台灣設計了總督府，但似乎也沒有表現出特別的興趣。捨次郎晚年得了胃癌，69歲的時候去世。等到孫子也結婚了以後，妻子志奈也開始在各家走動，於孫子們的家人們談起了在台灣生活時的酸甜苦辣。出生在大正年間的志奈，一直是一個非常溫柔的家庭婦女。志奈、清之、雪野分別於104歲，87歲，85歲時離開人世。在家裡的佛壇抽屜裏還保存著當年在台灣時的家族照片

和文字。這裡面包括了生前委託清之辦理的戶籍資料和家族系譜圖。

到了現在，美津子只要在網路上輸入祖父的名字，就會出現他在台灣設計的建築物的照片。2014年6月，他們被邀請參加林百貨的開幕式，那些過去深褐色的記憶瞬間就變得鮮活起來。祖父究竟經歷了怎樣的一生呢？我們將NICHE雜誌對祖母的訪談片段進行整理，配合照片，來回顧這位需要被台灣記住的設計師的一生。梅澤捨次郎如今與櫻花樹相伴，長眠于福岡縣玄界灘邊上的立花山墓地裡。